

# (I-54) 前橋市街地における広瀬川 に架かる桥梁の調査

○前橋市立工業短期大学 学生 吉野 宏紀  
前橋市立工業短期大学 学生 今泉 純  
前橋市立工業短期大学 正員 北村 直樹

## 1. はじめに

前橋市には名前がついている川が41本も流れている。東の方から列挙すると、桂川、東神沢川、西神沢川、神沢川、宮川、荒砥川、大泉坊川、貴船川、寺沢川、薬師川、藤沢川、五代川、金丸川、嶺川、滝ノ口川、鎌倉川、観音川、赤城白川、大堰川、細華沢川、法華沢川、桃ノ木川、広瀬川、佐久間川、吉野川、清水川、菰川、藤川、端気川、西川、風呂川、矢田川、馬場川、利根川、午王頭川、八幡川、かに沢川、滝川、

牛池川、染谷川、東西川、が挙げられる。これらは利根川に注ぎ流れる支流である。

川には橋が架けられていて、名前のある橋、無い橋等でまちまである。単にフタをした程度の橋、丸太を乗せたような橋も残っているが、標準化、規格化した橋がその大多数を占めているのは事実である。

市民憲章に「わたしたちは、水と緑と詩のまち前橋の市民です。」と唱えられ、水と緑を象徴するのは市街地を流れる広瀬川に代表され、市民のその認識で不満もない。それどころか、周囲の光景に見合った橋の建設をの要望さえ聞かれる今日である。そこで、本研究では、どこをどのように改善することが効果的であるかを主眼にして広瀬川に架けられている既存の橋を対象に実態調査を行った。調査の進行中に部材の損傷や劣化等の現象が見受けられたので、そのことについても二、三の考察を加えた。

## 2. 調査の概要

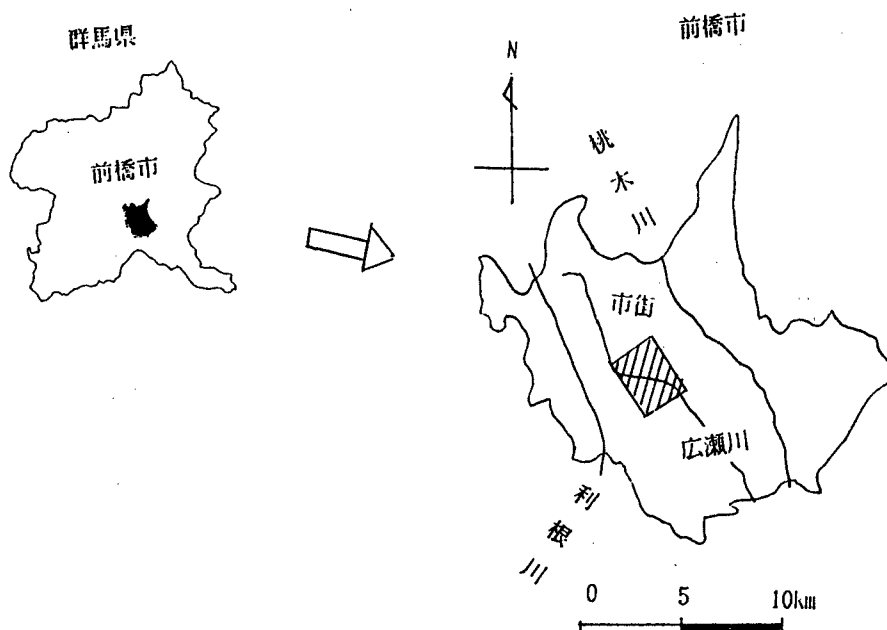


図-1 広瀬川の流路

建設省、群馬県、前橋市の道路管理者より台帳を閲覧させていただき、それを基にして広瀬川（図-1に流路概略を示した）に架かる橋について橋長、支間、幅員等の実測と部材の損傷の有無およびその程度を観察した。また、橋の周囲の光景の写真撮影および橋名の由来についても現地付近の方々からできる限りの聞き取り調査を行った。上図において斜線で囲った部分で主な古い橋は次のとおりである<sup>2)</sup>。

①共栄橋

昭和10年4月完成。橋長8m、幅員3m。橋名の由来は将来の願望を意味する。

②新東橋

完成年月は不詳。橋長13m、幅員7m。橋名の由来は方位と市街の東はずれを意味する。

③十六本橋

大正10年6月完成。橋長14m、幅員5m。橋名の由来は不詳。

④広東橋

完成年月は不詳。親柱の損傷が酷く欠損している。橋長10m、幅員4m。

⑤桃井橋

大正10年3月完成。橋長10m、幅員7m。橋名の由来は不詳。親柱は健在。

⑥比利根橋

完成年月は不詳。橋長13m、幅員13m。橋名の由来は不詳。

⑦うまや橋

大正9年2月完成。橋長13m、幅員18m。橋名の由来は地名を残した。

⑧柳橋

大正12年2月完成。橋長13m、幅員7m。橋名の由来は地名による。

### 3. 調査結果と考察

前橋には41の川が流れていて、そこに約420ほどの橋が架けられている。今回は市民に最も親しまれている広瀬川に着目をして調査を行った。構造上の調査では道路管理者に協力をいただいた橋梁台帳を基にして現地との照合を行った。それ結果、cm単位で誤差があることが観察された。特に古い橋にその傾向が見受けられた。古い橋の橋台が石積であったり、煉瓦積みであったりしたことから考えれば長い年月の間に多少の変形が生じるのと推察された。近年の自動車の増加によって、親柱、高欄等に損傷が発生している数も多く見られた。

文学館会館に併せて3年前に建設された「朔太郎」橋は、一昔前に繁栄した絹の街のイメージを意識した形式と、沢な材料が採用されている。中小河川に架けられる橋はこのような沢とも思える形と材料が採用されることが多くなるものと考えられた。

### 4. まとめ

技術の改良と革新を目指す学会にはふさわしくない内容だと叱言をいただくかもしれない。しかし、小さな川に架かる橋は住民に直結する大切な道の一部あり、生活の一部でもあり、さらには、数々の思いを育んだ場でもあり、橋を通じて歴史の雄大さを感じ新しい歴史を築くという観点から、新しい技術の道が開けることと思われたのでここに発表報告をさせていただきました。

### 参考資料

1) 前橋市：前橋市史（1～7巻）

2) 岩佐徹太郎：前橋の川と橋，上毛新聞社，昭和58年。